美唄尚栄高校のキャリア教育

北海道美唄尚栄高等学校
校長　　小　林　為五郎

1　学校概要

(1) はじめに

本校は北海道美唄高等学校と北海道美唄工業高等学校との統合により、平成23年４月に、空知管内初となる「総合学科」の高校として開校した。本校の源流をたどると、昭和16年創立の美唄工業学校（北海道美唄工業高等学校の前身）と昭和21年創立の町立美唄高等女学校（町立美唄高等学校の前身）にさかのぼる。その後、美唄市の発展（人口増）と高等学校進学率の上昇とともに拡大と分岐をたどり、美唄市の産業の変化と少子化等によって学校の統合を経ながら、複雑な変遷を有している。卒業生数は、43,135名となる（平成26年度卒まで）。

(2) 学校教育目標

〇確かな学力を備え、志を高く持つ人を育てる
〇豊かな心を磨き、郷土を愛し未来を拓く人を育てる
〇健やかな体を養い、活力ある社会を創る人を育てる

(3) 系列と特徴等

ア　文理・教養系列

大学・高等看護学校・公務員などの進路に対応した科目のグループ

イ　メカトロ・エンジニア系列

ロボットや機械などの学習を深め、工業系の進路に対応した科目のグループ

ウ　情報通信マネジメント系列

ICT・流通・販売・電気などの学習を深め、商業・電気系の進路に対応した科目のグループ

エ　デザイン系列

服飾や住まいのデザインなどの学習を深め、家庭・建築系の進路に対応した科目のグループ

オ　フード系列

地域の食材を生かした食品などの学習を深め、農業の進路に対応した科目のグループ

平成27年度３年次生の進路希望状況

進路希望	進学	就職	合計
文理・教養	18	11	29
メカトロ・エンジニア	7	17	24
情報通信マネジメント	5	5	10
デザイン	9	7	16
フード	16	9	25
合　計	55	49	104

（平成27年７月調べ）

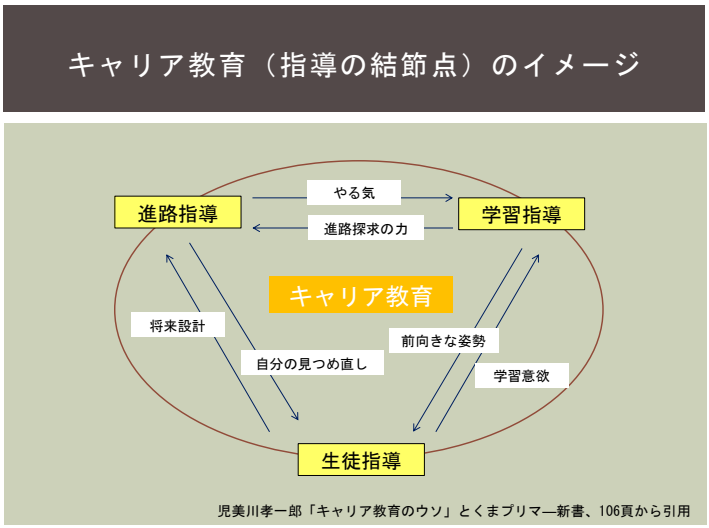
2　本校のキャリア教育

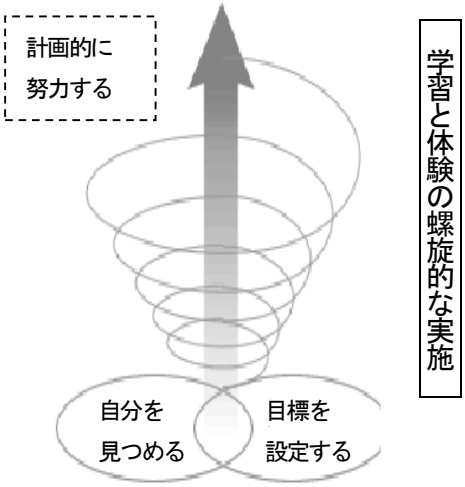
(1) 概念

１年次の「産業社会と人間」や２・３年次の「総合的な学習の時間」において、キャリア教育やガイダンスを推進していく。自己を理解する→広く職業について知る→自己の希望を洗い出す→自己を生かす正しい職業選択→高校卒業後の進路の決定を、年次を進めながら螺旋的なイメージで学習と体験を実施している。

またキャリア教育は、特定の学習活動だけで取り組まれるのではなく、学校教育全体に埋め込まれてこそ効

果を発揮することから、本校のキャリア教育は、「学習指導」「生徒指導」「進路指導」を相互に結びつける結節点として位置づけている。





⑵「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」における取組

ア　１年次生「産業社会と人間」

① 職業について見聞し、様々な職業観・労働観・人生観について学ぶ。
② 自己について見つめ直し、自己発見と自己理解を行う。
③ 様々な情報を収集し、進路実現の道筋を立ててその学習を始める。

☆系列模擬授業
☆課題研究発表会
☆事業所見学
☆企業が求める人材
☆なるにはシリーズ
など

→ 調べる・見る・聞く

STEP　UP

イ　２年次生「総合的な学習の時間Ⅰ」

① 社会人とのコミュニケーションや社会体験を通じて、自己の適性について考える。
② 自己発見・自己理解に基づき、将来の進路を早期に明確にする。
③ 進路実現のための能力や態度を身につける。

☆職場レポート
☆社会体験実習
☆見学旅行発表会
☆なるにはシリーズⅡ
など

→ 話す・体験する・考える

STEP　UP

ウ　３年次生「総合的な学習の時間Ⅱ」

① 社会人として必要な知識や態度を身につける。
② 進路希望と関連する分野の課題を研究し、発表する。
③ 進路実現に向けて、具体的な活動に取り組む。

☆課題研究
☆課題研究発表会
☆進路実現計画
☆就業体験（希望者）
など

→ 探究する・働く・進路実現する

⑶ 地域性を素材とした取組

ア　社会体験実習

２年次生全員を対象として、６月に地域の約50社の事業所の協力を得て、社会体験実習（２日間）を行う。右表のように、事前・事後におけるフォローや学習の時間を設けていることが特徴である。

2年次　社会体験実習の内容

		内　　容	時数
［事前指導］	○	希望調査	1
	○	先輩の体験談	1
	○	実習日誌作り	
	○	実習先調べと質問項目作成	1
	○	依頼状作成	2
	○	自己紹介カード作成	1
	○	礼法指導	1
	○	実習先訪問シミュレーション	
	○	実習先事前挨拶、打ち合わせ、聞き取り調査	6
	○	聞き取り調査まとめ、自己達成目標設定	1
	○	礼状指導	1
［社会体験中］	○	社会体験実習	12
［事後指導］	○	礼状指導	1
	○	まとめアンケート	1
			29

イ　校種間（地域）連携

食育事業（空知総合振興局）の一環として、市内小学校との連携による田植え体験、ハスカップジャムづくり、食育勉強会などを実施した。また工業科は研究指定事業を通して、地元企業や高等教育機関と連携し、安全でクリーンな電動トラクターを開発したり、美唄市町内会からの依頼を受けてごみステーションを製作した。

ウ　４系列（教科クラブ）合同販売会

毎年、工業・農業・商業・家庭の教科クラブが協力して、美唄市のスーパーで連携販売会を実施している（右写真）。昨年度は、農業クラブがハムやジャムなどの製品を製造・販売した。商業・家庭クラブがポップ作りやショーケース周りの装飾を担当、工業クラブが看板やアーチ製作、EVトラクターを展示するなど、会場を盛り上げた。

【４系列合同販売会】

⑷ 成果と課題

ア　成果

(ｱ) 進路状況はキャリア教育の成果もあり、改善が見られる。特に、国公立大学等の上級学校への進学者の増などにつながっている。

(ｲ)「産業社会と人間」や選択授業等における体験的な学習、少人数教育、生徒の興味関心による教科科目の選択等、様々な教育活動や取組が、生徒の学力向上や人間性の成長に実を結んでいる。

イ　課題

(ｱ) 地域の総合学科に対する理解度が低く、また生徒のうち30%程度が総合学科での学習に満足していない。また、地域の中学生の本校入学率が少し上向きであるが、昨年度は約30%であった。３間口を維持していくために、５～６割にまで高めたい。

(ｲ) 本校においては、キャリア教育等の教育活動の推進が、退学者数の減少までには、つながっていない。